





図01 上野花見・両国川遊図屏風 元禄11年～享保期（1698～1736）江戸東京博物館

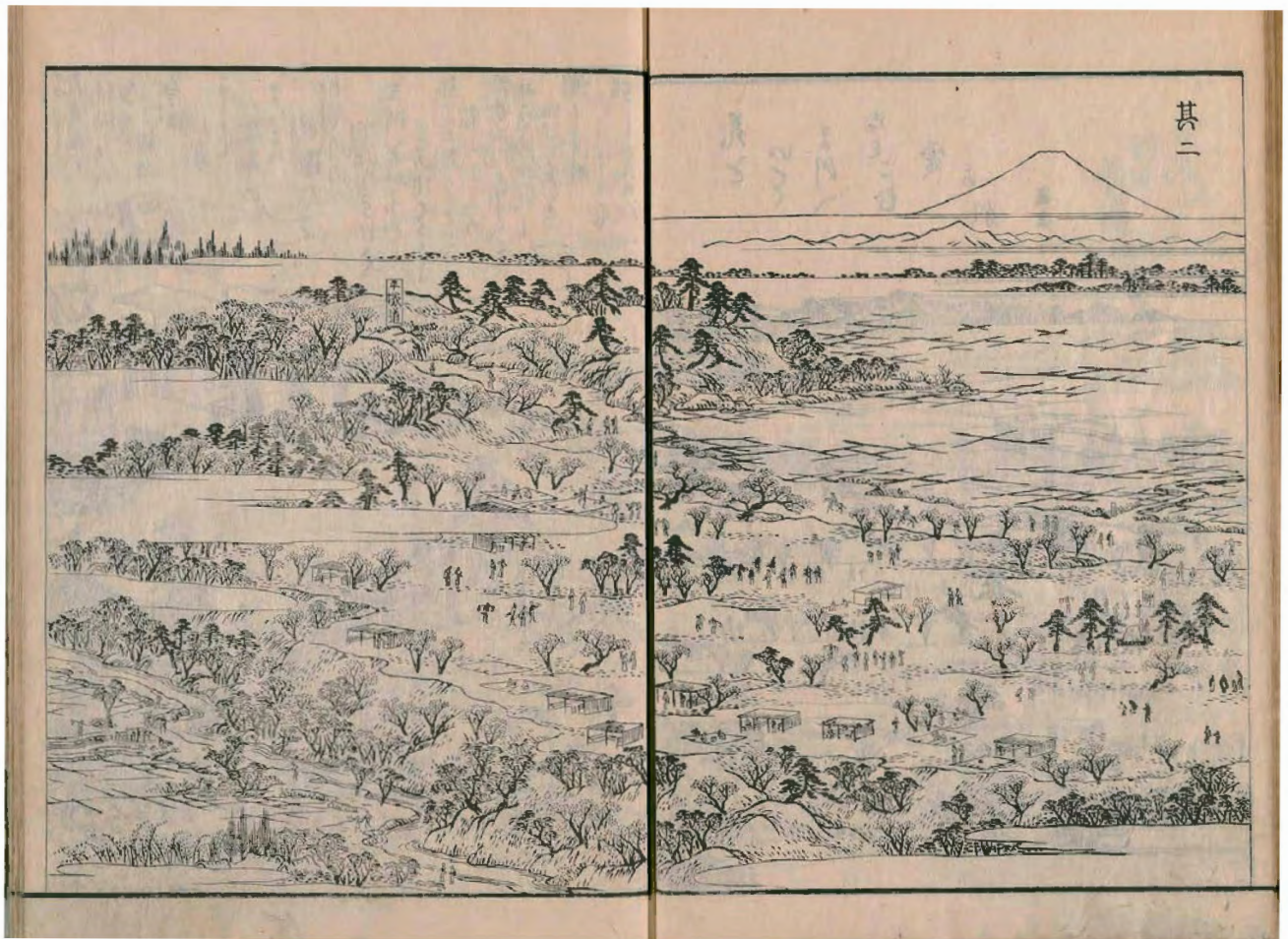


図02-2 飛鳥山全図 其二 『江戸名所図会』 斎藤月岑 他編著・長谷川雪旦 画 天保5～7年（1834～36）国会図書館デジタルコレクション





図03 墨田川看花 『東都歳事記』 斎藤月岑 編著・長谷川雪旦・雪堤 画 天保9年（1838）江戸東京博物館



図04 富嶽三十六景 東海道品川御殿山ノ不二 葛飾北斎 画 天保2～4年（1831～33）江戸東京博物館





图05 江戸近郊八景 小金井橋夕照 歌川広重 画 天保9年（1838）江戸東京博物館



图06 小金井橋満花 『江戸名所花暦』 岡山鳥 編・長谷川雪旦 画 文政10年（1827）江戸東京博物館









図08-1・2 浴恩園真景 上 星野文良 原画・酒井梅斎 写 明治14年（1881） 国会図書館デジタルコレクション



図08-3 浴恩園真景 下 星野文良 原画・酒井梅斎 写 明治14年（1881） 国会図書館デジタルコレクション



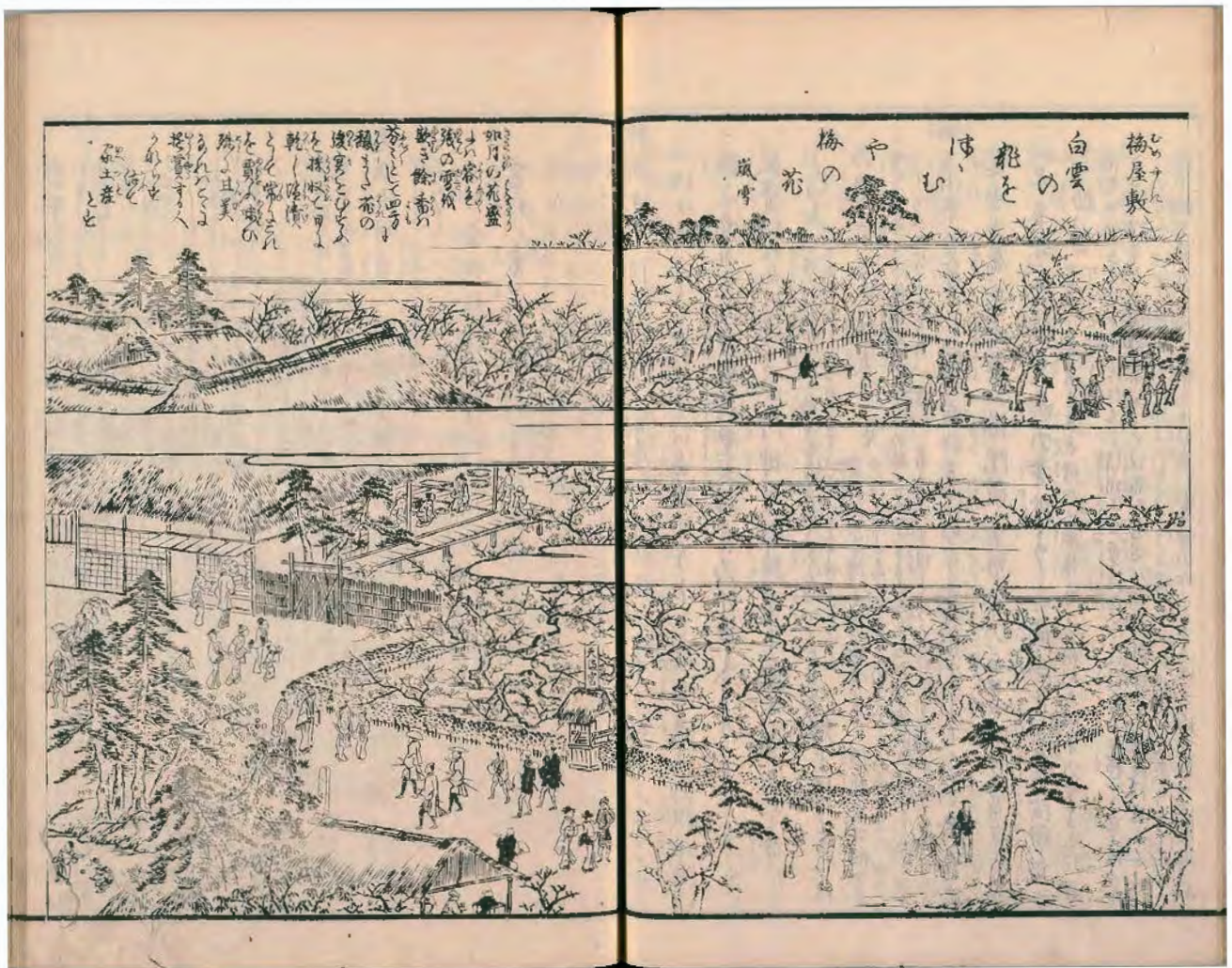


図09 梅屋敷 『江戸名所図会』 斎藤月岑 他編著・長谷川雪旦 画 天保5～7年(1834～36) 国会図書館デジタルコレクション



図10 浅草奥山四季花園入口光景 歌川国貞(三代豊国)画 嘉永5年(1852) 雑花園文庫





図11-2 隅田川百花園図 早春梅屋敷  
蹄斎北馬 画 19世紀前期 江戸東京博物館



図11-1 隅田川百花園図 秋百花園  
蹄斎北馬 画 19世紀前期 江戸東京博物館





図12 『広益国産考』 大蔵永常 著 天保15年（1844）国会図書館デジタルコレクション

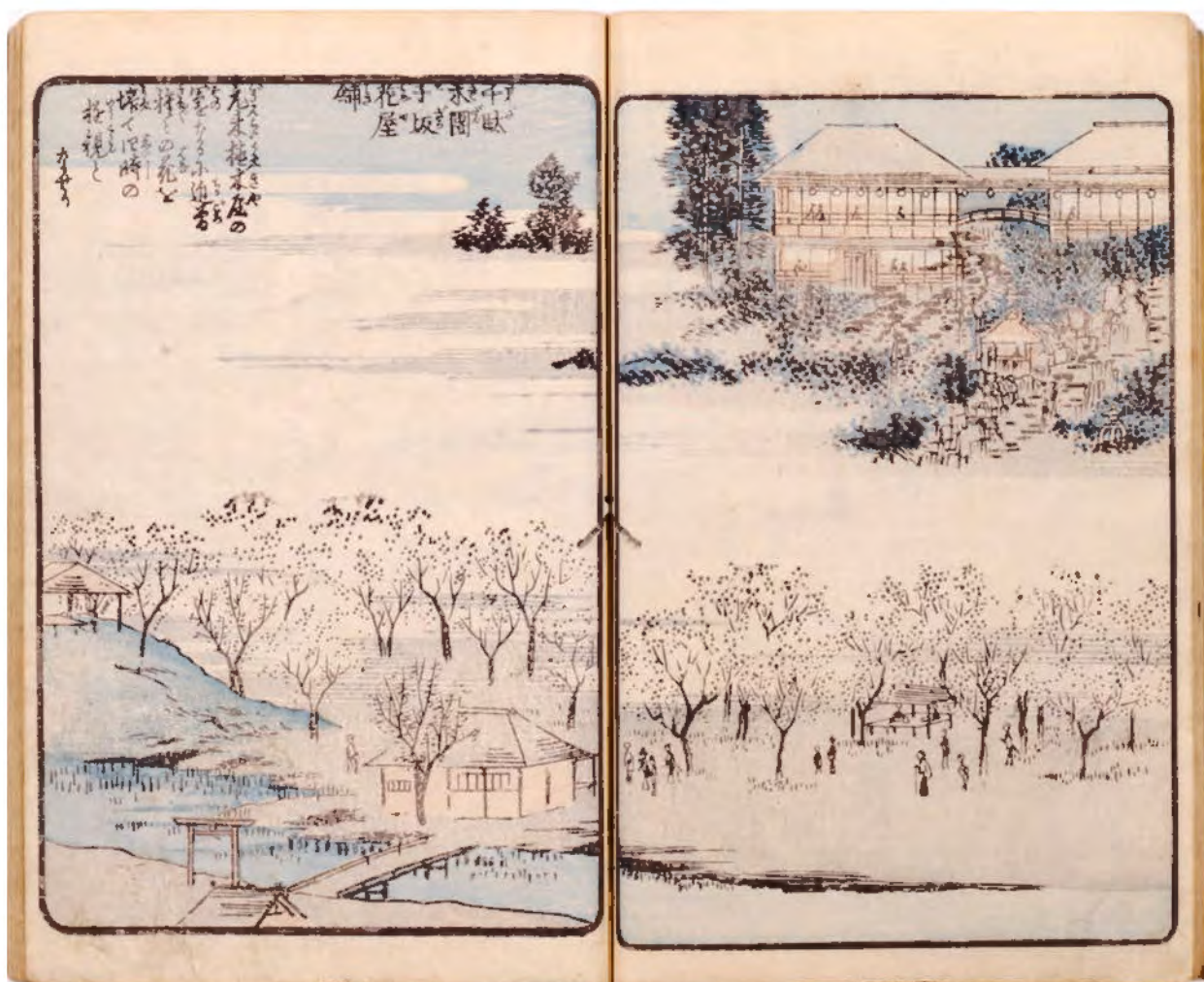


図13 千駄木団子坂花屋舗 『絵本江戸土産』 松亭金水 著 歌川広重 画 嘉永3年（1850）江戸東京博物館





図14 上野寛永寺境内花見の景 伝杉村治兵衛 画 17世紀後期 江戸東京博物館



図15 飛鳥山花見の図 歌川広重 画 安政元年（1854） 江戸東京博物館





图16 隅田川東岸花見図 歌川国貞（三代豊国）画 文化8年～天保年間（1811～1844）江戸東京博物館



图17 東都名所 新吉原五丁町弥生花盛全図 歌川広重 画 天保13年（1844）以前 江戸東京博物館





图18 東都名所 上野不忍蓮池 歌川広重 画 天保14~弘化4年（1843~47） 雑花園文庫



图19 名所江戸百景 亀戸天神境内  
歌川広重 画 安政3年（1856）  
江戸東京博物館





図20 『あさかほ叢』 四時庵形影 著 文化14年（1817）江戸東京博物館



図21 百種接分菊 歌川国芳 画 文化9～万延元年（1812～60）江戸東京博物館





図22 流行菊花揃 染井植木屋金五郎 歌川芳虎 画 天保15年（1844）江戸東京博物館



図23 東都名所 海案寺紅葉ノ図 歌川広重 画 天保3年（1832）江戸東京博物館



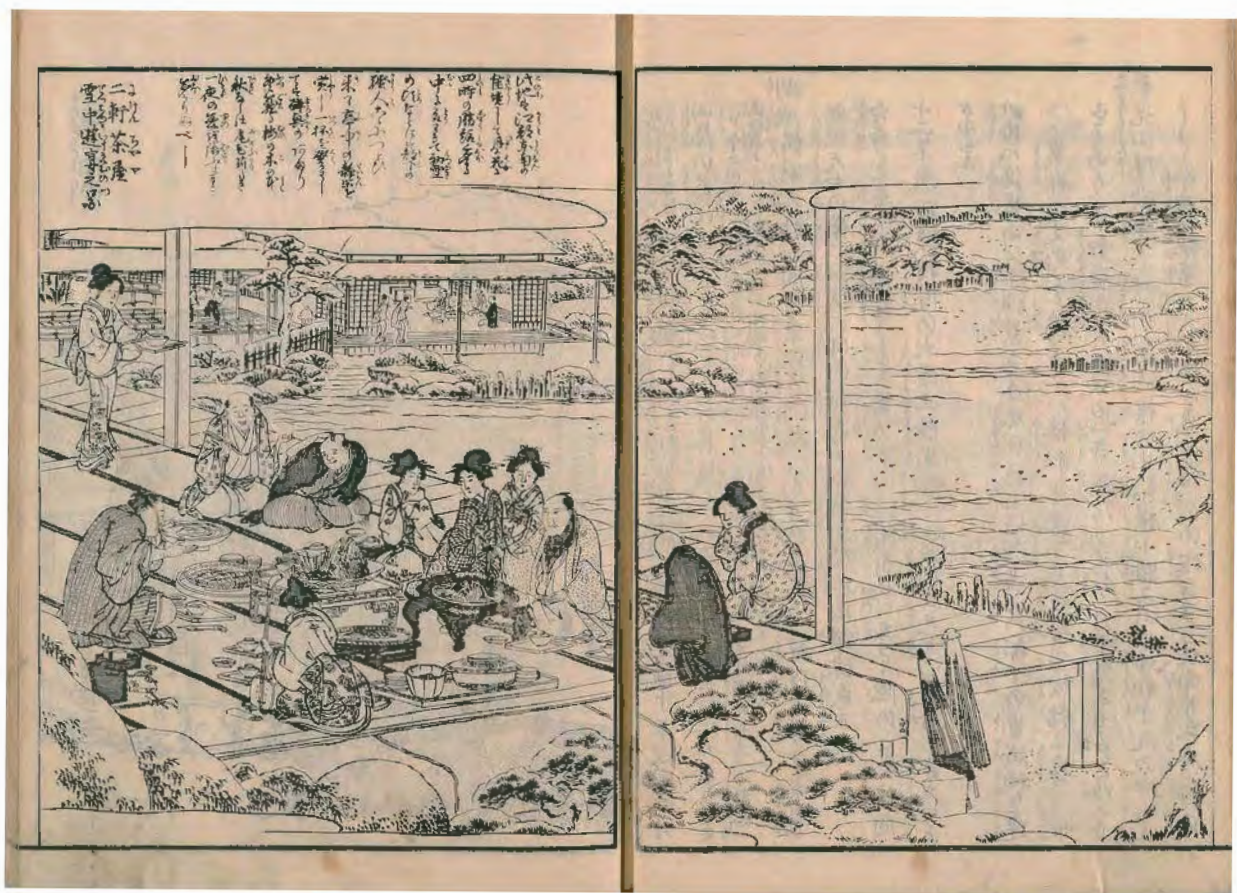


図24 二軒茶屋雪中遊宴之図『江戸名所図会』

斎藤月岑 他編著・長谷川雪旦 画 天保5～7年(1834～36) 国会図書館デジタルコレクション



図25 梅幸住居雪の景 歌川国貞(三代豊国)画 文政6年(1823) 雑花園文庫





図26 百椿図 上段：右 徳川光圀／左 良尚法親王 下段：右 林羅山／左 松平忠国 伝狩野山楽 画 17世紀 根津美術館



図27 桜花譜 松平定信 原図 谷文晁 原画 文政5年（1822）国会図書館デジタルコレクション



図29 牡丹錦鶏図 柳沢伊信 画 明和2年（1765）  
公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会

図28 芍薬図 柳沢伊信 画 明和2年（1765）  
公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会





図30-1 『草木錦葉集』 水野忠暁 著 文政12年（1829）江戸東京博物館



図30-2 『草木錦葉集』 水野忠暁 著 文政12年（1829）江戸東京博物館





図31 竺蘭獅子三種 大岡雲峰 画 弘化4年(1847) 雑花園文庫



図32 万年青七種 関根雲亭 画 天保2年（1831） 雑花園文庫





図33 小おもと名寄 水野忠暁 撰・関根雲亭 画 天保3年（1832） 雑花園文庫



図34 小不老州名寄七五三 水野忠暁 撰・関根雲亭 画 天保3年（1832） 雑花園文庫



図35 子おもと名寄 水野忠暁 撰・関根雲亭 画 天保3年（1832） 雑花園文庫





図36 子不老草名寄 水野忠暁 撰・関根雲亭 画 天保3年(1832) 雑花園文庫



図37 小おもと名寄 水野忠暁 撰・関根雲亭 画 天保3年(1832) 雑花園文庫



図38 こおもとなよせ 水野忠暁 撰・関根雲亭 画 天保3年(1832) 雑花園文庫





図39 長生草 楊貴妃 三遊亭里朝 嘉永5年（1852）雑花園文庫



図40 和歌摺物 桜草図（摺物画帳「吾妻のにしき」） 窪俊満 画 東京都立中央図書館特別文庫室（加賀文庫）





図41 南天奇品写生五木 大岡雲峰 画 文政4年（1821） 雑花園文庫



図42 福寿草写生図 江戸時代末期～明治初年 雑花園文庫





図43 花菖蒲画賛 松平定朝（菖翁）画 安政2年（1855）雑花園文庫



図44 花菖培養録 松平定朝（菖翁）著 嘉永6年（1853）国会図書館デジタルコレクション





図46 『花壇朝顔通』 壺天堂主人 著・森春溪 画  
文化12年（1815） 江戸東京博物館



図45 『あさかほ叢』 四時庵形影 著 文化14年（1817）  
江戸東京博物館



図47 『朝顔三十六花撰』 万花園主人 撰・雪斎（服部雪斎）画 嘉永7年（1854） 国会図書館デジタルコレクション





図48-1 『草木奇品家雅見』 繁亭金太 撰輯 文政10年（1827） 国会図書館デジタルコレクション



図48-2 『草木奇品家雅見』 繁亭金太 撰輯 文政10年（1827） 国会図書館デジタルコレクション









图50 染井之植木屋『絵本江戸桜』北尾政美 画 享和3年（1803）江戸東京博物館

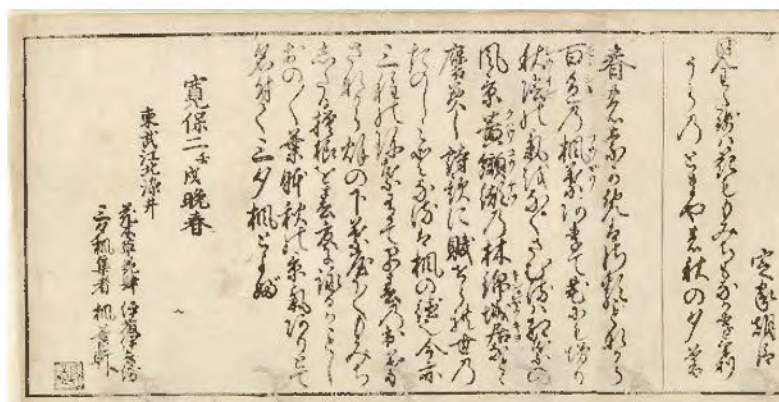


图51 三夕楓之図 伊藤伊兵衛（政武）著 寛保2年（1742）雑花園文庫



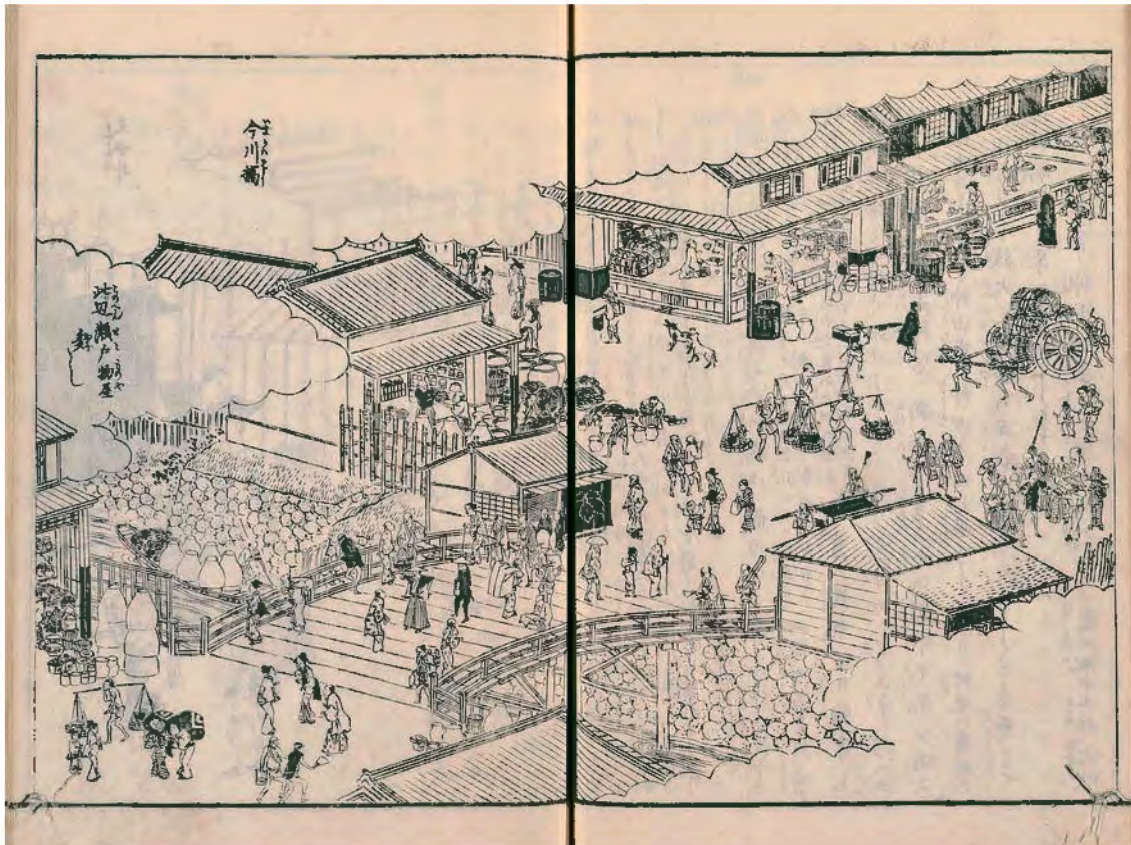


図52 今川橋『江戸名所図会』 斎藤月岑 他編著・長谷川雪旦 画 天保5〜7年(1834〜36) 国会図書館デジタルコレクション



図53-1 『金生樹譜』別録 長生舎主人(栗原信充)著 天保4年(1833) 江戸東京博物館



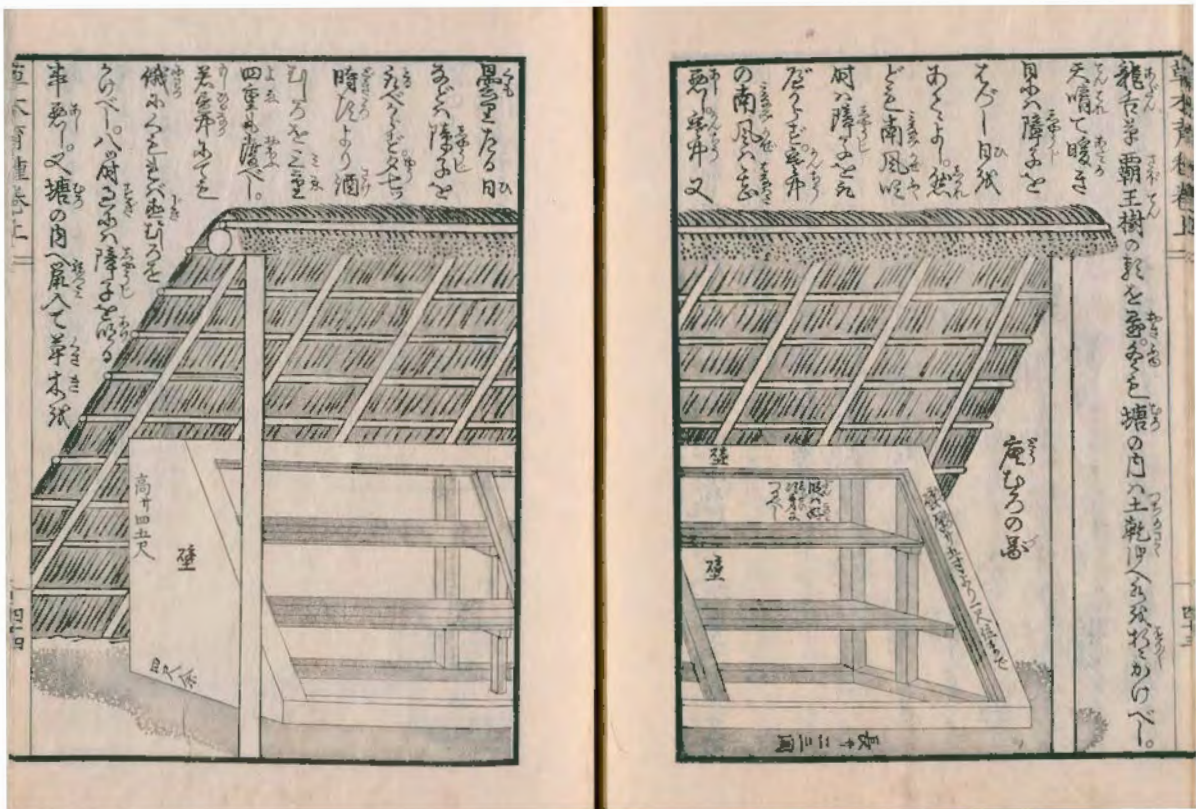


図54 唐むろの図 『草木育種』上 岩崎常正 著 文化15年（1818）国会図書館デジタルコレクション

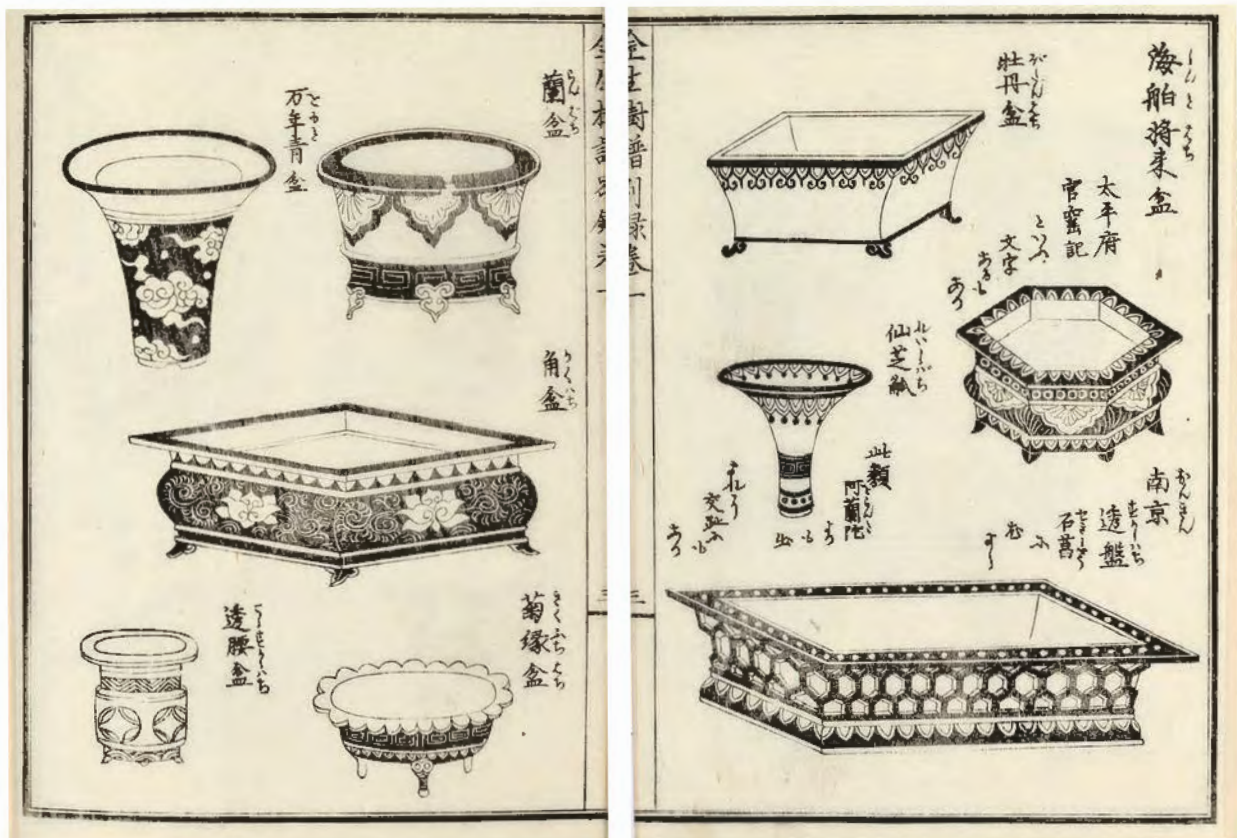


図53-2 『金生樹譜』別録 長生舎主人（栗原信充）著 天保4年（1833）江戸東京博物館



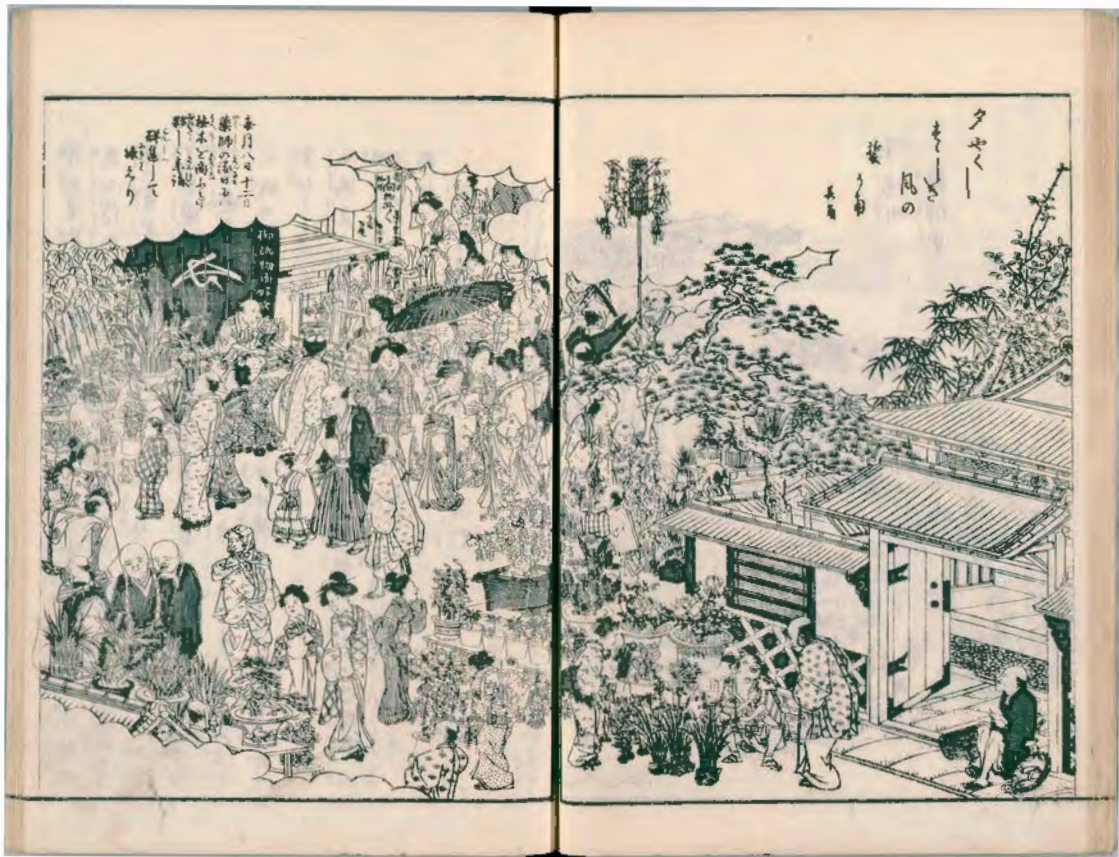


図55 薬師の縁日 『江戸名所図会』 斎藤月岑 他編著・長谷川雪旦 画 天保5～7年（1834～36）  
国会図書館デジタルコレクション



図56 浅草雷神門之光景 歌川国貞（三代豊国）画 嘉永6年（1853）江戸東京博物館



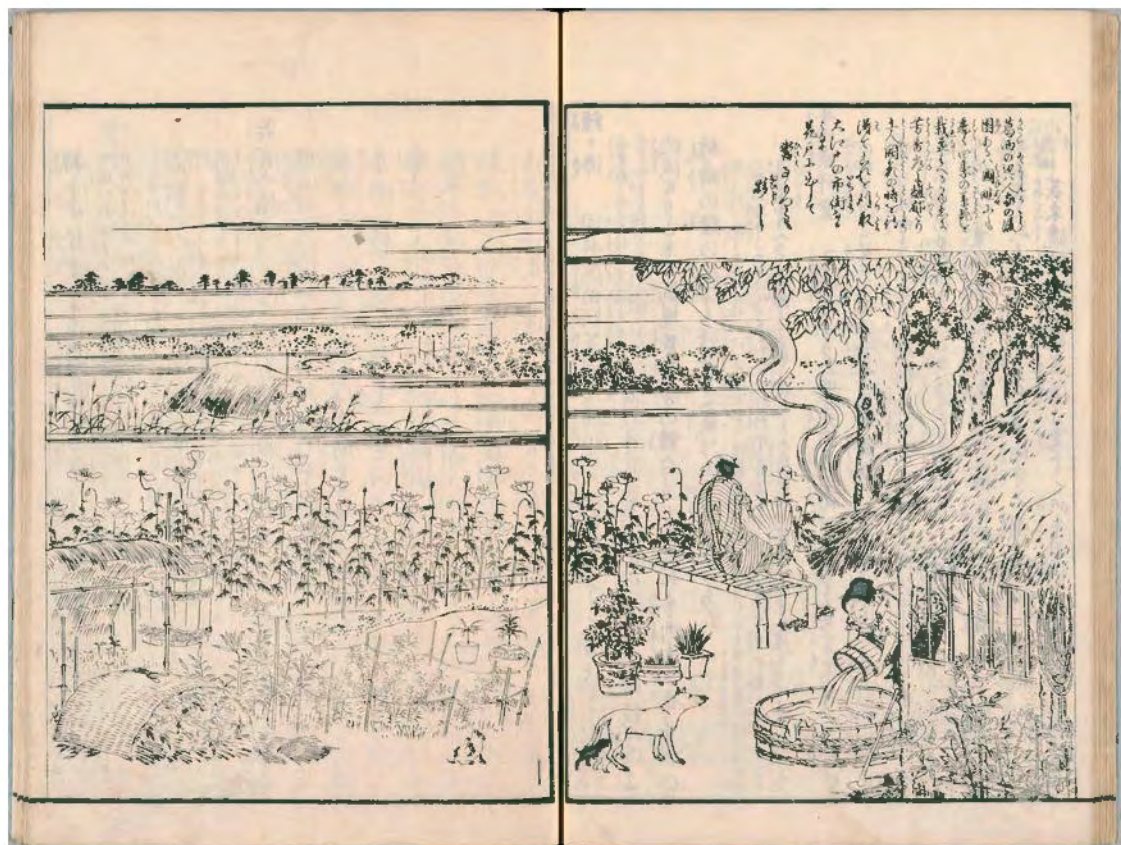


図57 葛西 『江戸名所図会』 斎藤月岑 他編著・長谷川雪旦 画 天保5～7年（1834～36）  
国会図書館デジタルコレクション



図58 『橘品類考』 灌河山人 著 寛政9～10年（1797～98） 国会図書館デジタルコレクション





図59 きりしま古木の図 伊藤伊兵衛 著 近藤清春 画 享保7～宝暦3年（1722～53）頃 雑花園文庫

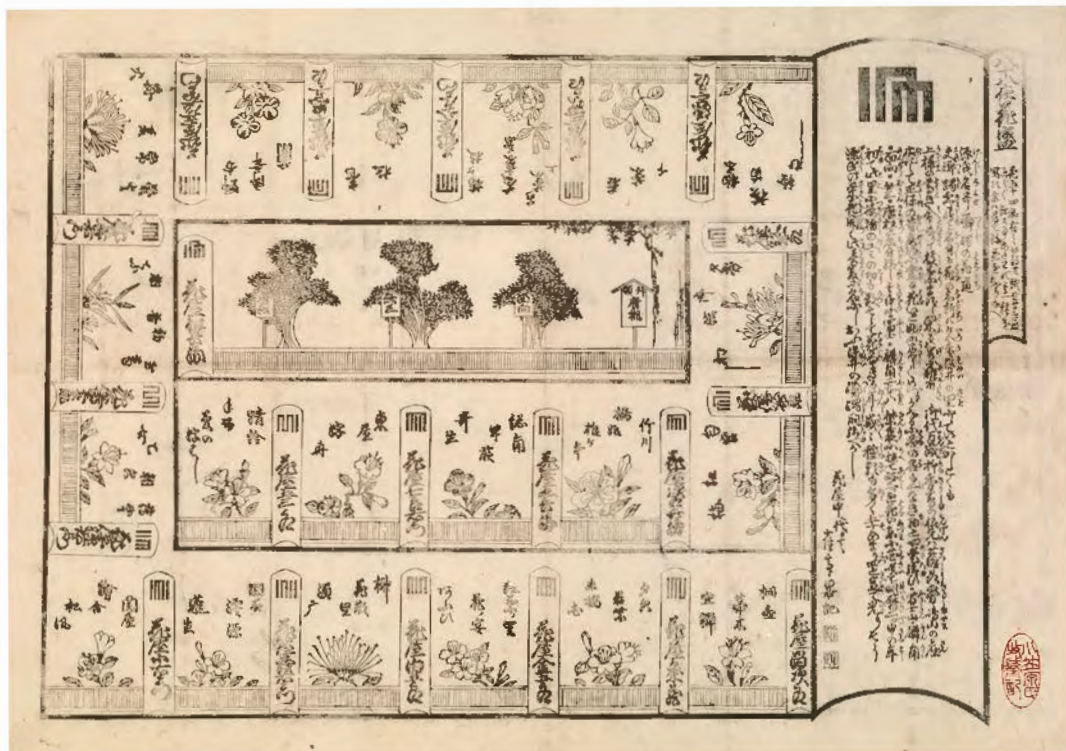


図60 八十八夜花盛 源氏名寄躑躅の花道 雀亭 著 19世紀前期 雑花園文庫





図61 ツチアケビと名付ル 花屋小右衛門 作  
享保7年（1722） 雑花園文庫

図62 『草木育種』引札 19世紀前期 平野 恵氏



図63 剪綃梅 谷文晁 画 文政7年（1824） 雑花園文庫



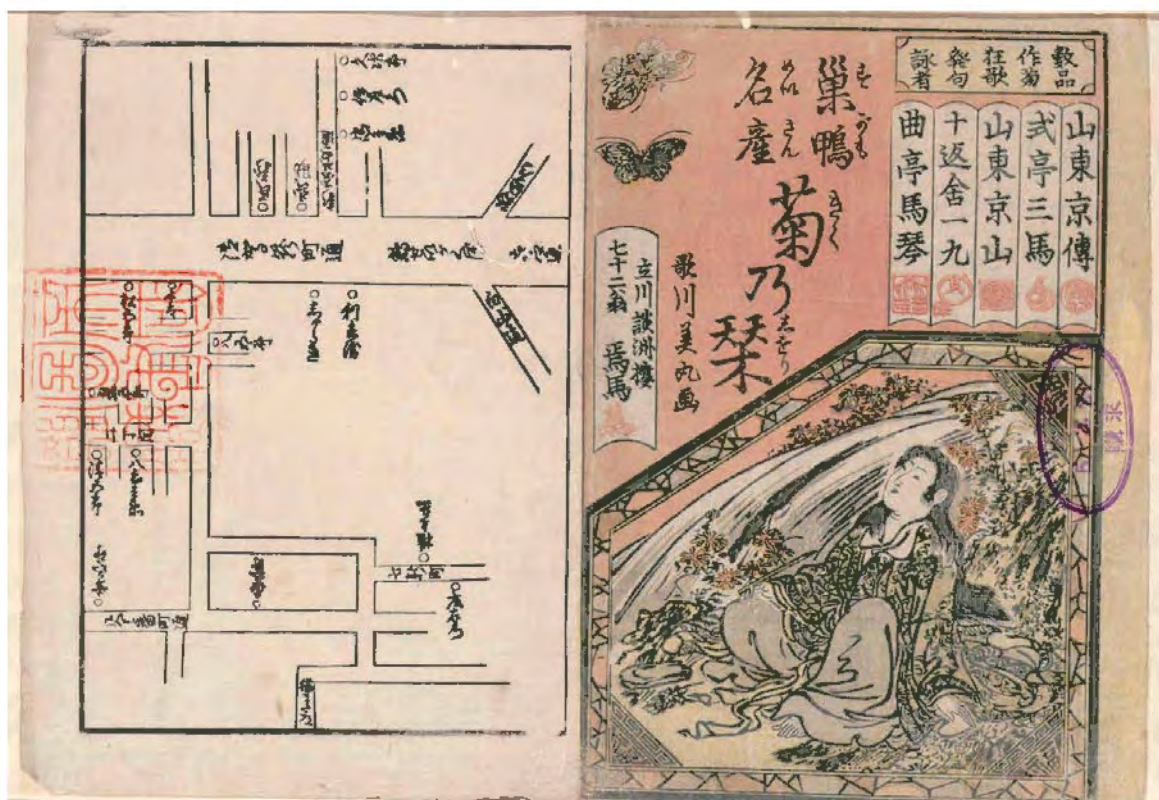


図64-1 巢鴨名産菊乃琴（「商牌雑集」二十七所収） 立川談洲樓馬馬 編・歌川美丸 画 文化11年（1814）  
国会図書館デジタルコレクション





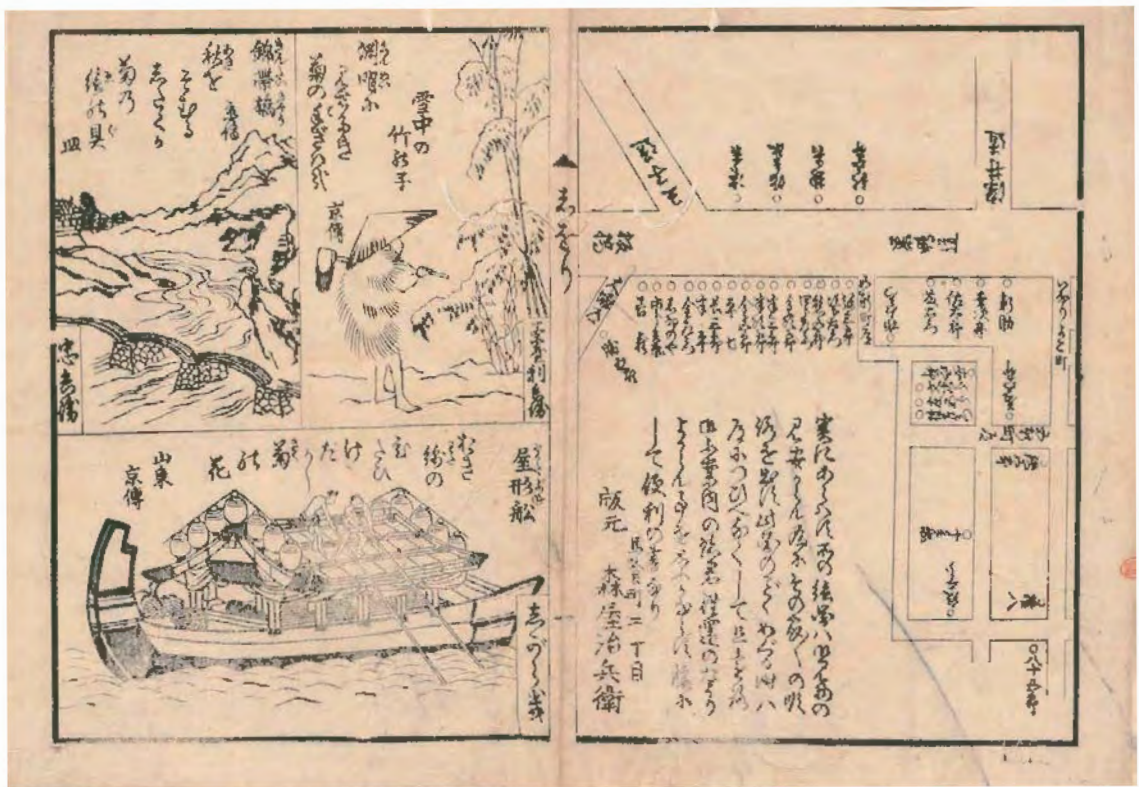


図64-2 巢鴨名産菊乃菜（「商牌雑集」二十七所収） 立川談洲楼焉馬 編・歌川美丸 画 文化11年（1814）  
国会図書館デジタルコレクション



図65 小金井桜堤道しるべ 葛飾北斎 画 年未詳 雑花園文庫



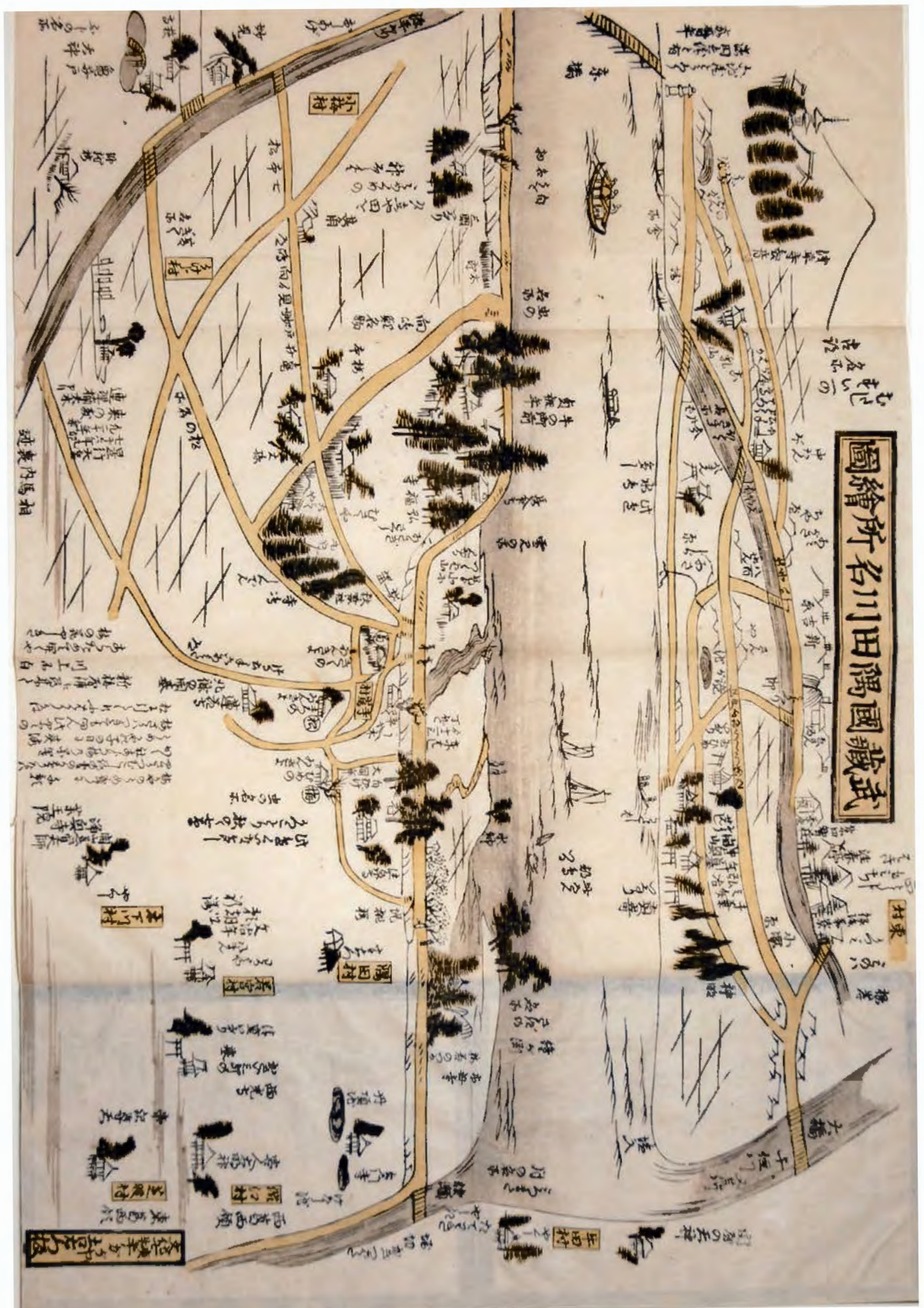


図66 武蔵国隅田川名所繪圖 文化7年（1810）江戸東京博物館





図67 『絵本江戸土産』 松亭金水 著・歌川広重 画 嘉永3年（1850）江戸東京博物館

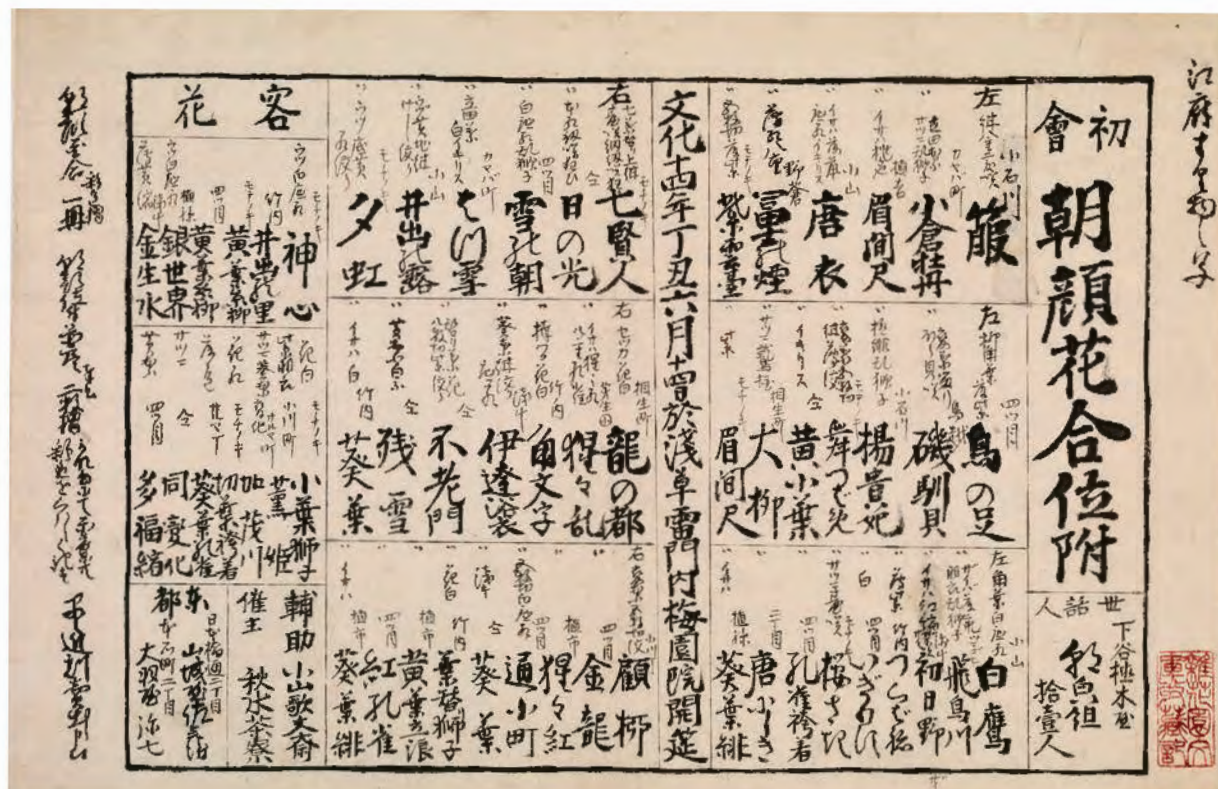


図68 初会朝顔花合位附 四時庵形影 著 文化14年（1817）雑花園文庫





図69-1 『菊花壇養種』 菅井菊叟 著・溪斎英泉 画 弘化3年(1846) 江戸東京博物館

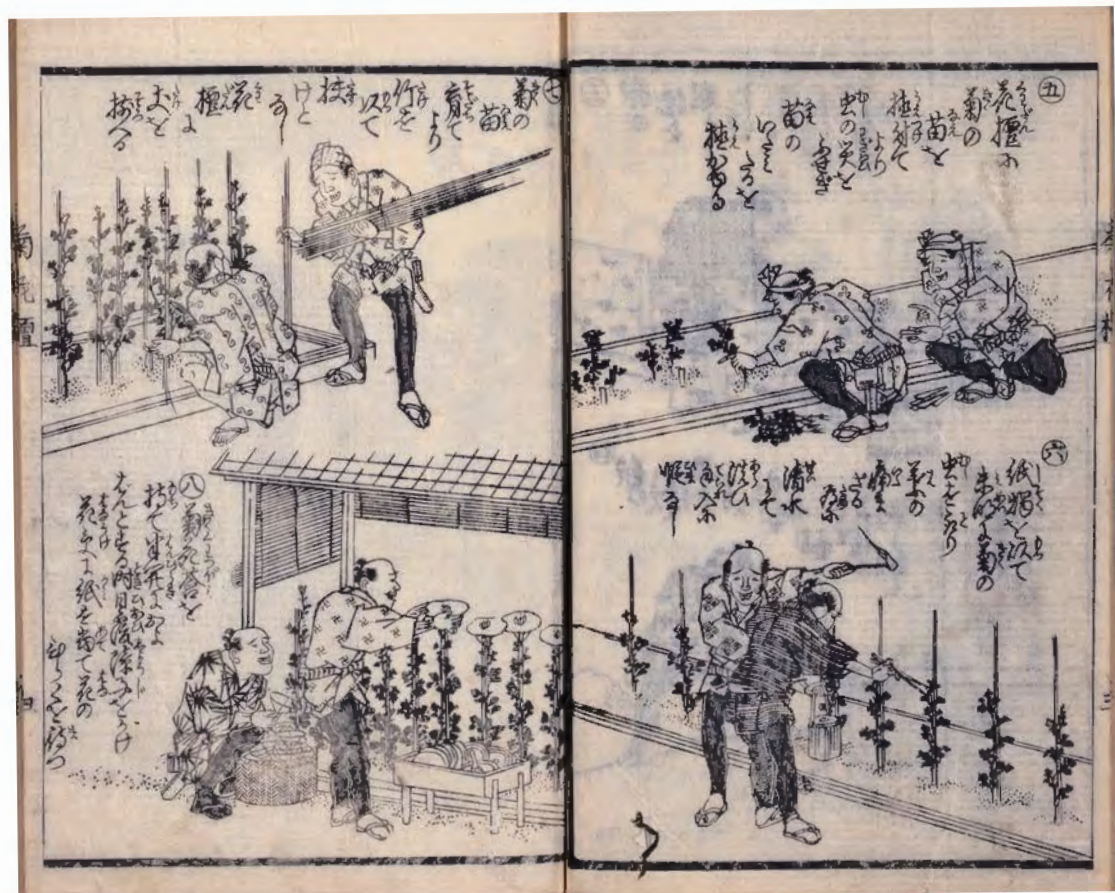


図69-2 『菊花壇養種』 菅井菊叟 著・溪斎英泉 画 弘化3年(1846) 江戸東京博物館





図69-3 『菊花壇養種』 菅井菊叟 著・溪斎英泉 画 弘化3年（1846）江戸東京博物館

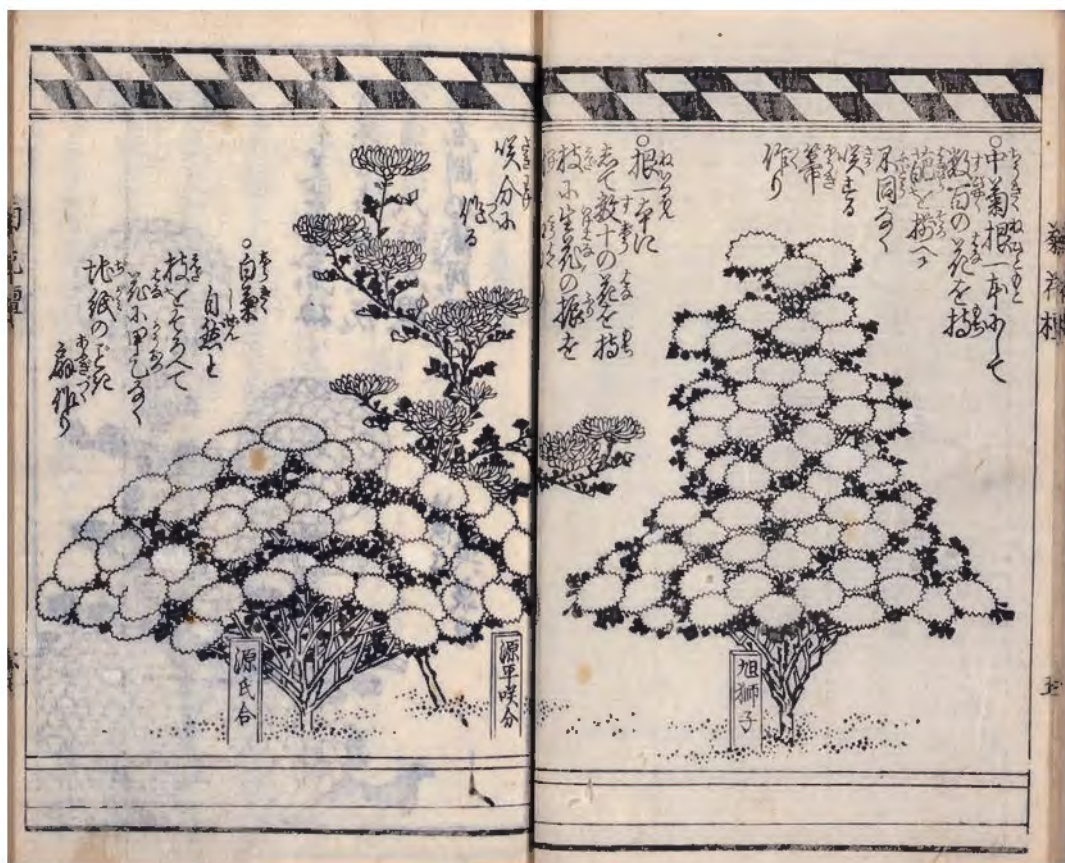


図69-4 『菊花壇養種』 菅井菊叟 著・溪斎英泉 画 弘化3年（1846）江戸東京博物館





図70 江戸城 西桔橋東側石垣上より乾二重櫓方面（旧江戸城写真ガラス原板） 横山松三郎 撮影 明治4年（1871）  
江戸東京博物館



図71 江戸城 西ノ丸吹上門（旧江戸城写真ガラス原板） 横山松三郎 撮影 明治4年（1871） 江戸東京博物館





図72-2 植物図説雑纂 伊藤圭介 編著 江戸末期～明治 [写]  
国会図書館デジタルコレクション



図72-1 植物図説雑纂 伊藤圭介 編著  
江戸末期～明治 [写]  
国会図書館デジタルコレクション



図74 東京 亀戸天神藤棚 (幻燈原板)  
BRANSON DECOU 製・AUGUSTA A. HEYDEN 彩色  
明治後期～昭和初期 江戸東京博物館



図73 東京自慢十二月 六月 入谷の朝顔  
月岡芳年 画 明治13年 (1880)  
江戸東京博物館





図75 興行チラシ（俳優似顔菊細工活人形 浅草公園花やしき 細工人安本亀八） 明治後期 江戸東京博物館



図76 興行チラシ（菊細工人形大技術 十二士見立のだんまり） 名古屋市中区萬松寺境内 奥村黄花園 明治42年（1909）  
江戸東京博物館





図77 名古屋黄花園記念絵葉書 東両国於国技館開催 明治～大正期 江戸東京博物館



図78 秋園の菊花 橋本周延 画 明治21年（1888） 江戸東京博物館





図79 観菊の女性たち 明治～大正期 江戸東京博物館



図80 東京開化三十六景 堀きり花菖蒲 歌川広重（三代）画 明治7年（1874）江戸東京博物館





図81 東京名所 赤坂見附の桜花 明治～大正期 江戸東京博物館



図82 東京市大出水の光景 向島百花園花壇ノ浸水 明治43年（1910） 江戸東京博物館





図83 左 アオキ雄株・右 アオキ雌株  
FLORA JAPONICA (邦題『日本植物誌』)  
ツンベルグ 著 1784年 雑花園文庫



図84 新渡花葉図譜 [1] 渡邊又日庵 撰 伊藤小春 写 大正3年(1914) 国会図書館デジタルコレクション

メリケン産  
ニチニチ艸 花戸ノ名  
本名不詳 紅ト白トアリ  
底紫如図  
文久二壬戌五月  
横浜ヨリ来ル

白ニアツク輪





図85 東花植木師高名鏡 梅若吉邦 著 明治9年（1876）文京ふるさと歴史館

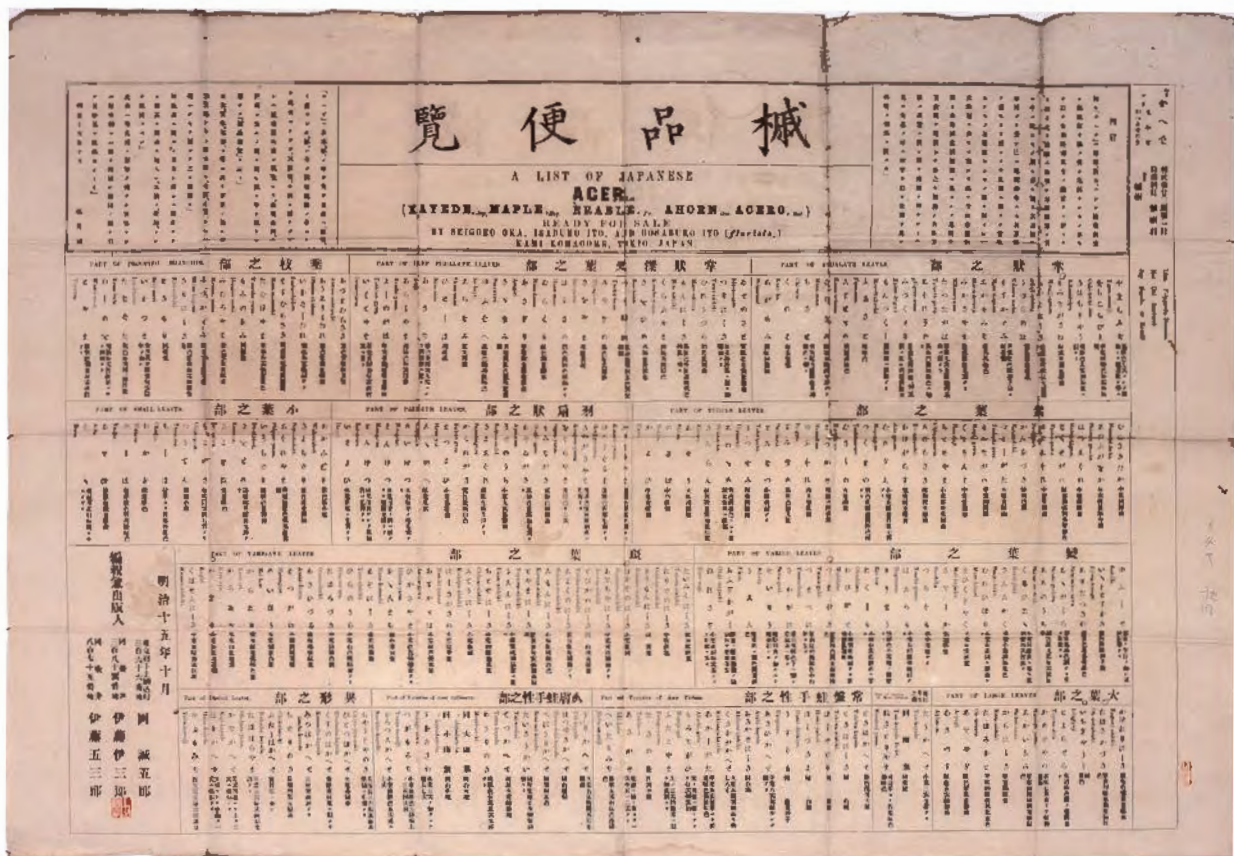


図86 械品便覧 岡誠五郎・伊藤伊三郎・伊藤五三郎 編 明治15年（1882）江戸東京博物館





図87 横浜植木花菖蒲輸出カタログ 横浜植木株式会社 編 明治23年（1890）以降 江戸東京博物館

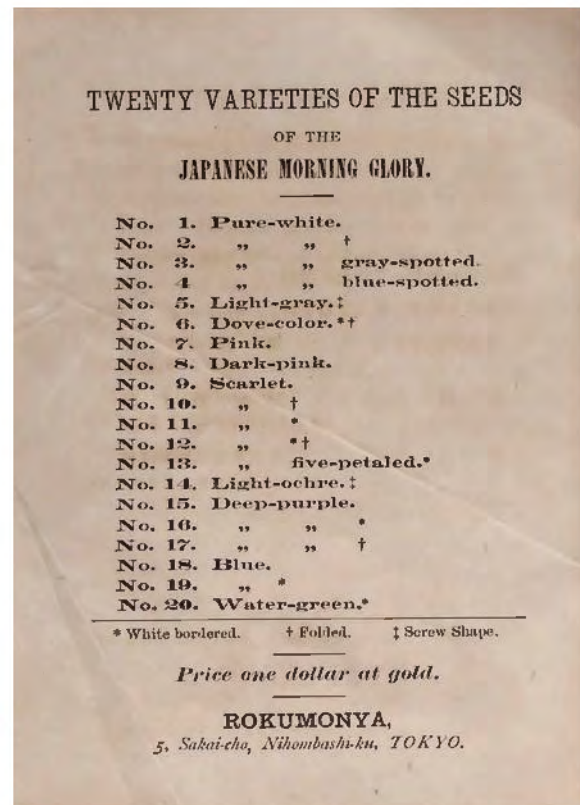


図88 日本朝顔栽培の手引き (A Guide for Cultivators of the Japanese Morning Glory) 新倉省三 著 明治27年（1894） 江戸東京博物館





図89 蒲田藤花 明治～大正期 江戸東京博物館



図90 植木売り 明治～大正期 江戸東京博物館



表紙図版：「牡丹錦鶏図」柳沢伊信 画 明和2年（1765）

公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会蔵

柳沢伊信は柳沢吉保の孫にあたり、大和郡山藩二代藩主となった人物である。後に名を信鴻と改める。安永2年（1773）、家督を嫡子保光に譲り、染井駒込の下屋敷（以下、六義園と記す）に移って、俳諧・読書・物見・観劇・園遊など悠々自適の生活を送った。史料87「宴遊日記」（P.88）を記した隠居大名はこの人のことである。六義園に移ってから記されたこの日記には園芸に関わらない日はほぼない。抄録した2年分（安永9年〔1780〕～天明元年〔1781〕）の「宴遊日記」の中でも、紙面の都合上、割愛せざるを得なかった園芸関係記録が多くある。抄録に漏れた中に、鳥を囲い育てようとする記録や、鶴のつがいの観察、池の魚の記事なども含まれる。一見、鳥や魚の記事など、園芸に直接関わらないように見えるものでも、「作庭」という、人工的でありながら完全な自然を作り上げる作業の中で、自然にあるものを園芸に取り入れることを、心から楽しみながら目指した信鴻の努力が垣間見られる。

「宴遊日記」執筆以前に描かれた、「牡丹錦鶏図」（表紙・図29）と「芍薬図」（図28）は、単なる花鳥画にとどまらず、芍薬と牡丹の見事な描き分けと、自然に対する観察力をよく表す史料であり、信鴻が若い頃から教養に留まらない関心を自然の造形に寄せていたことを伝えるものとして掲載した。柳沢吉保が元禄15年（1702）に築造した庭園、六義園が吉保の死後に管理が行届かなかったのを、信鴻は、「七過六義園絵図に合せ、所々の名を札にかき印を建」（天明元年10月25日条）という状態にまで戻した。本史料集では、この記事が書かれた天明元年（「宴遊日記」巻九下）から遡ることおよそ2年の園芸関係記録を対象とした。膨大な史料のすべてを掲載できなかったが、それでもなおこの日記には、隠居後の信鴻が、日々六義園の手入れを怠らず、自ら芝刈りをし、植木屋の手配をし、自身で植物の買入れ、作庭し続けていたことを克明に記録している。こうした信鴻の園芸生活の記録と、彼の残した花鳥画は近世文化史には欠かせない貴重な資料である。